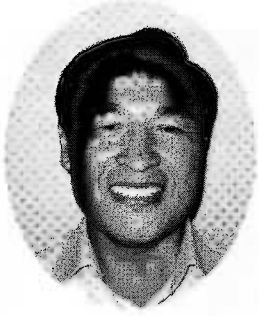


学生リーグ戦の思い出



防衛大学校空手道部主将（昭和45年卒）

奥松 勉

当時4年生であった私たちは、前年度リーグ戦団体戦優勝、当年度全国大会3位でこのリーグ戦を迎えた。そして、3年生だけで編成した44年度団体戦も優勝することができ、各大学2名の代表（約60名）で争われた個人戦は、幸運にも私が優勝させて頂いた。

準決勝では、全国大会形優勝で組み手でも常に上位に名を連ねる名門・駒澤大学の佐々木2段との対戦であった。佐々木選手は、同校のもう一人の佐々木選手とともに著名な選手だった。試合は、先に私の得意技「牽制突っ込み逆突き」で技ありをとり、次は出会いの逆突きで何とか勝つことができた。

決勝戦は、リーグ団体戦で2年連続準優勝校の青山学院の的場2段だった。同選手は、動きながらの刻み突きが得意だった。極めて俊敏だったので出合いに集中し、逆突きで技ありを取り、判定勝ちとなった。

これより先、準々決勝で日大農獣医の選手と対戦した。接近戦で目に当たってしまい、二重三重に見えたが、反則アピールと思われるのが嫌で直ぐに試合を続行した。得意技には絶対の自信を持っていたので、攻撃は最大の防御とばかりに、突っ込んでいった。その出鼻、中段の前蹴りを見事に極められてしまった。その蹴りは全く見えず、息を詰めてしまった。勝負で言えば相手の1本勝ちであるが、試合では私の反則勝ちになってしまった。極めて不本意だったので、試合後「悔しいだろう。後でノールールでも何でも戦ってやるから残っておけ！」と傲岸にも言い放ったのである。（表彰式終了後その選手を探しに行かせたが実現しなかった。）本当は、「反則負けにさせてしまって申し訳ない。後はあなたの分まで頑張ります。」というべきだったろう。汗顔の至りである。あの時の失礼な態度に対して、この場を借りてお詫び申し上げたい。

リーグ戦での経験は、その後の私の人生に極めて大きな影響を与えた。この大会に感謝申し上げる。